

平成25年度 山内図書館事業計画書

衣・食・住・読！ 生活密着図書館「Liferary」を目指して

有隣堂グループ

2013/03/15

目 次

はじめに	3
第 1 章 山内図書館運営の基幹方針	
1 施設の概要	4
2 指定管理者	4
3 指定管理業務の方針	4
(1) 基本方針	
4 施設運営及び管理に関する計画	5
(1) 人員配置及び研修	
(2) 施設の保守・管理	
(3) ニーズの把握、情報公開	
(4) 危機管理	
(5) 自己評価	
第 2 章 山内図書館平成 25 年度事業計画	
1 青葉区及び山内図書館の特徴	7
(1) 青葉区の特徴	
(2) 山内図書館の特徴	
2 平成 24 年度の振り返り	7
(1) ホームページのコンテンツの充実	
(2) 35 周年記念事業	
(3) 朝市の開催	
3 これまでの取り組み（平成 22 年度～24 年度）	8
(1) 地域コミュニティとの連携	
(2) 環境の整備	
(3) 図書館内のミニミニショップ「山内堂」（民間ノウハウの活用）	
(4) 区民のライフスタイルや世代に合わせた企画	
(5) 発信	
(6) 学校連携事業	
4 外部からの要望	13
(1) 平成 23 年度横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会からの指摘事項	
(2) 平成 23 年度の利用者アンケートからの声	
5 山内図書館の課題	14
(1) 数値で見る現状	
(2) 現状と外部からの要望から浮かび上がる課題	
6 戦略計画ツール「SWOT 分析」を用いた課題の分析	17

7 平成 25 年度の事業方針	18
(1) 地域の情報拠点	
(2) 知のシンクタンク	
(3) 知のオアシス	
8 取り組みのテーマ	19
9 具体的な取り組みと期待される効果	20
(A) 地域コミュニティとのさらなる強化	
(B) 新規利用者の開拓と利用促進	
(C) 民間ノウハウ（来館者をもてなす志）を活用	
(D) 図書館内の環境整備	
(E) 発信の強化	
10 収支予算計画	22
おわりに	23
- 資 料 -	
別紙 1 山内図書館平成 25 年度自主企画事業年間計画表	
別紙 2 山内図書館平成 25 年度小・中学校支援年間計画表	

衣・食・住・読

生活密着図書館「Liferary」

《 はじめに 》

私たちは、山内図書館を地域とともに活性化する『生活密着図書館 Liferary（ライフラリー）』をとらえています。

衣食住が満たされた現在、実りある豊かな人生とするには、知的好奇心を満たすことが重要であると考えます。

「衣・食・住・読」をコンセプトに、利用者の身近で、利用者に寄り添い、利用者の人生を豊かにする図書館を目指します。

第1章 山内図書館運営の基幹方針

1 施設の概要

施設名	横浜市山内図書館
所在地	横浜市青葉区あざみ野二丁目3番地の2
構造・規模	鉄筋コンクリート造3階建（図書館部分：2階）
延床面積	2,147平方メートル

2 指定管理者

法人名	有隣堂グループ
所在地	横浜市戸塚区品濃町881-16
代表者	株式会社 有隣堂 松信 裕
指定期間	平成22年4月1日～平成27年3月31日
主な受託実績	株式会社 有隣堂 指定管理者実績：大田区立大森東図書館、綾瀬市立図書館 横浜市市沢地区センター・港南台地区センター・永谷地区センター 業務委託実績：川崎市立川崎・幸・麻生・多摩・高津・宮前図書館、厚木市中央図書館、小田原市学校図書館支援（36校） 大田区学校図書館支援（2校）横浜国立大学附属横浜中学校図書館支援 三洋装備 株式会社 指定管理者実績：小山市民文化センター・小山中央公民館・生麦地区センター・西湘体育センター 業務委託実績：横浜市美しが丘西地区センター(他32か所) 平成25年3月現在

3 指定管理業務の方針

(1) 基本方針

指定期間中の基本方針は、指定期間の5年間を通して次のとおりです。

山内図書館の図書館基本業務の確実な継承・維持・強化とサービスの増加により、市民の生活や活動の支援・応援を行い、身近で親しみやすい生活密着図書館となることを目指します。

山内図書館のサービスの基本方針は以下の3つです。

① 地域情報拠点機能の強化

地域の実情を研究し、必要とされる情報の収集と利用者満足度の高い提供方法を検討・実施していきます。

② 課題解決支援機能の強化

生活情報へのアクセシビリティを高め、「ここにくればわかる」図書館を目指すとともに、自助自立の精神をもって市民の情報リテラシー向上を支援します。

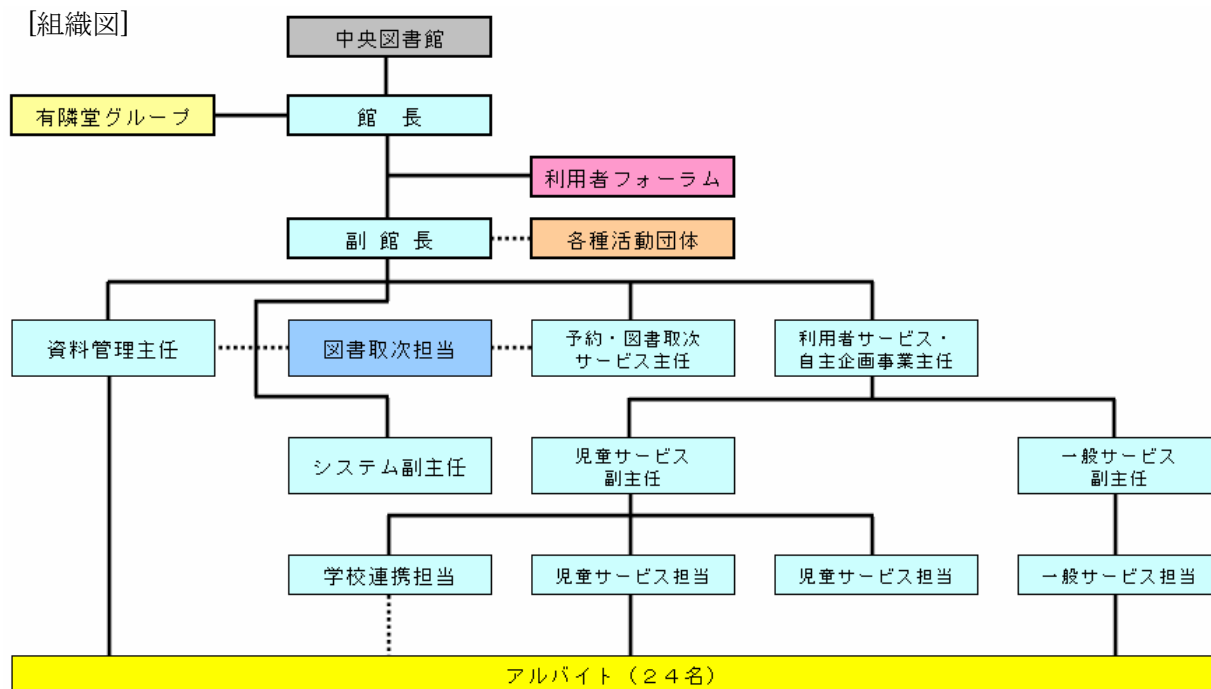
③ 地域の特色に合わせた個性ある地域図書館

利用者会議「山内図書館利用者フォーラム」からの意見をはじめ、地域で活動するボランティアや企業も含めた団体などから地域の方々の声を運営へ反映させます。また、自主企画事業での連携企画やボランティア団体や子どもの図書館活動への参加機会創出など、市民の活動の場を提供します。

4 施設運営及び管理に関する計画

(1) 人員配置及び研修

[組織図]



[研修]

研修名	対 象	内 容	回数／年
個人情報保護研修	職員・アルバイト全員	個人情報の取扱、注意事項などの研修	2
コンプライアンス研修	職員・アルバイト全員	法令遵守のための研修	1
防災訓練	職員・アルバイト全員	通報、初期消火、避難誘導など	2
危機管理研修	職員・アルバイト全員	危機管理	1
児童サービス	児童サービス担当	外部の講座の受講など	1
障がい者サービス	障がい者サービス担当	外部の講座の受講など	1
レファレンスサービス	職員	外部の講座の受講など	1
自主企画事業	自主企画事業担当	外部の講座の受講など	1
情報機器研修	システム担当	外部の講座の受講など	1
郷土資料研修	資料担当	外部の講座の受講など	1

(2) 施設の保守・管理

業務内容	達成指標
建築・設備の保守管理	業務水準とおり適切に維持管理を行います。
警備業務	防犯、安全管理のため、警備会社に委託し、夜間等保安警備業務を行います。
清掃・環境衛生管理	業務水準とおり適切に維持管理を行います。 トイレの仕上げ、巡回清掃に重点をおき、美観を保持します。

(3) ニーズの把握、情報公開

① ニーズの把握

24 年度に引き続き、カウンターでの利用者からの口頭でのご意見、意見箱からの利用者の声や、イベント時でのアンケートなどから利用者ニーズを把握していますが、加えて山内図書館利用者フォーラムや団体利用者などから意見を聞く機会を設けニーズを把握します。

② 個人情報保護・情報公開

「個人情報の保護に関する法律」、「横浜市個人情報の保護に関する条例」ほかの法令を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努めるとともに、「横浜市山内図書館情報公開規程」に基づき、情報公開についての適切な対応に努めます。

(4) 危機管理

防災計画に基づき、年 2 回の防災訓練を実施します。危機管理マニュアルに基づき、図書館に起こりうる危機（災害・事故・犯罪・迷惑行為等）に備えた教育・研修を行います。また、連絡体制についても、緊急連絡網により中央図書館・本部への連絡を徹底します。

(5) 自己評価

これまでと同様、職員全員にセルフモニタリングを実施します。このセルフモニタリングをもとに、有隣堂グループによる「セルフモニタリング会議」を開催し、自己評価を行って今後の方向性を話し合い、26 年度の事業に反映させます。「セルフモニタリング報告書」は、市及び「山内図書館利用者フォーラム」に報告後、ホームページ等で公表します。

第2章 山内図書館平成25年度事業計画

1 青葉区及び山内図書館の特徴

(1) 青葉区の特徴

横浜市青葉区は、「全国の中でも長寿であること」、「人口が多い」、「若い子育て世代が多い」、「公園や街路樹が多い緑豊かな街並みであること」が特徴としてあげられます。人口推移も微増傾向にあり、昭和以前から住んでいる旧住民と東急開発による新興住民が混在しています。横浜市内で市外就業率が一番高く、特に東京都へ通勤通学する住民が多い地域です。

区内には、大学が5校、高校4校、中学校12校、小学校31校と文教施設が多いことも特徴です。

一方、寺家ふるさと村やこどもの国など自然を残した施設があり、公園の数も市内で一番多く自然に恵まれています。

(2) 山内図書館の特徴

昭和52年に開館した横浜市内で、3番目に歴史ある図書館です。建物は地区センターとの複合施設で、地域の拠点となっています。駅から徒歩5分の場所にあり、近くて便利な図書館です。

平成22年度からは横浜市初の指定管理者制度が導入され、制度導入とともに開館時間を延長しました。平日火曜日から金曜日は、20時30分まで開館しています。

また、山内図書館は青葉区内の地区センター等に図書取次事業を実施しています。利用者は山内図書館に来館せずとも、近隣の地区センター等7施設で予約資料の受取と返却ができます。田園都市線の3駅にも返却ポストを設置しており、駅でも本の返却ができます。予約した資料を郵便で自宅へ送付する有料宅配事業も行っています。

利用者は、平日の午前は知的好奇心の高い高齢者、母親と未就学児の親子、午後は買い物帰りの主婦層、学校を終えた小中学生、夜間はビジネスマンが利用しています。土日はファミリーでの利用が多くみられます。

2 平成24年度の振り返り

平成24年度は、山内図書館の認知度を高めることと、ホームページの充実に努め、利用者へのサービス向上を図りました。また、山内図書館の開館35周年に当たることから、継続で行っている事業に加え、35周年記念事業を行いました。

(1) ホームページのコンテンツの充実

「キッズページ」「青葉探訪 郷土資料の探し方（郷土資料パスファインダー）」「学校図書館支援ページ」を新設しました。

(2) 35周年記念事業

ア 「読み継がれる絵本たち」のリストの作成と本の展示

山内図書館が開館した昭和52年ころより、現在も読み継がれている絵本を紹介しました。

イ 山内図書館来館ポイントカードの発行

来館のたびにスタンプを押印。月1回ポイント2倍の特典日を設定し、利用者に来館する楽しみを付加するとともに、リピーターづくりに努めました。

ウ 山内図書館の開館当時と現在を紹介する企画展示とジオラマの製作

山内図書館の歩みをパネル展示で紹介しました。また、開館当時の図書館周辺の風景をジオラマで再現し、新旧住民に図書館のあるあざみ野付近の移り変わりを知ってもらう展示資料づくりをしました。

エ 読書クロスワードパズルの作成

本に親しんでもらうことを目的に、本を読んで答える問題を学年別（中学生以上、5歳くらいまで、小学1・2年生、小学3・4年生、小学5・6年生の5種）に作成しました。



*来館ポイントカードと読書クロスワードパズルには、記念品として山内図書館マスコットキャラクター「やまちゃん」のオリジナルチャームを用意しました。

【クロスワードパズル】

(3) 朝市の開催

新規イベントとして朝市を実施し、非来館者の来館へのきっかけづくりを創出しました。

3 これまでの取り組み（平成22年度～24年度）

(1) 地域コミュニティとの連携

ア 郷土史家や地域団体との連携

企画展示や自主企画事業を通して郷土史家や地域で活躍するボランティアの方との人間関係を築くことができました。講座や企画展示で協力をあおぐ一方、郷土史家やボランティアの方が出版された書籍の販売を行いました。

① 地域活動団体「まっぴい青葉の街」と連携

『青葉区いろはカルタ』を作成・電子化し、ホームページでカルタを楽しめるようにしました。

② 地域資料等の販売

郷土史家 横溝潔氏著の『江と石川村』、小松崎勇氏著の『俳風 鶴見川歴史紀行』、空とぶじゅうたん(おはなしボランティア)こがようこ氏著の『あたしおねえちゃん』の、

横浜・緑区米軍機墜落事故平和資料センター発行の『今、ハトポッポの歌が聞こえますか』を販売しました。

イ 青葉区内の官民との連携企画

区役所や区内の大学との連携を進めました。

① 区主催のクールアース講座に参加

9 か月検診の親子を対象におはなし会を実施しました。

② 横浜美術大学と連携

3 5 年前の山内図書館周辺をあらわしたジオラマを制作、展示しました。

(2) **環境の整備**

館内を整備し、快適な環境づくりに取り組んできました。

ア 座席数の増加

平成23年度のアンケートで「座席が足りない」という声が多かったので、ソファ席をカウンターテーブル席に変更し、8席から11席に座席数を増やしました。

イ ティーンズコーナーの拡張

新規に棚を設置し、ティーンズコーナーのイメージを一新しました。

ウ トイレの改修

平成23年度のアンケートに、「トイレを洋式にして欲しい」という声が多く、児童・一般トイレの個室6か所を和式から洋式へ改修しました。また、一般トイレのドアをウエスタンドアに変更し、男女のトイレの動線にも配慮しました。

(3) **図書館内のミニミニショップ「山内堂」（民間ノウハウの活用）**

図書館で必要と思われる筆記用具をはじめとする文房具の販売を行っています。利用者から要望の多かったシャーペンや替芯を商品に加えるなど、便利で利用しやすいミニショップを目指しています。

ア オリジナルエコバッグの販売

「本を大切にする」「よむ・きく・活用する」をイメージデザインした山内図書館オリジナルエコバックは3年間で242枚（平成25年2月現在）を販売し、図書持ち帰り用袋の持参を促しました。

イ 地域資料と横浜に関する絵葉書等の販売

- ・青葉区にゆかりのある書籍や青葉区の方が出版した郷土の本とともに、利用者からの書籍注文を受けて、取り寄せでの本の販売を3年間で9冊行いました。
- ・著名人を招いた講演会の際には、会場で講演会に関連した本の出張販売を行うとともに、講演後には期間限定で展示販売を実施し、55冊販売しました。
- ・横浜に関する絵葉書「yokohama's memory」を16セット販売しました。

(4) 区民のライフスタイルや世代に合わせた企画

対象	事業名	年次	説明	連携先
子育て世代	定例おはなし会	22年度～ 月4回	乳幼児対象向けと3歳以上1人でお話を聞ける子向けを開催	空とぶじゅうたん（山内図書館おはなしボランティア）
	布えほん講座	22年度	手作り布絵本の製作講座	弊社有隣堂社員
	鈴木光司氏によるイクメン講演会	23年度	作家 鈴木光司による子育て講演会	
	やまうちとしょかん夏のおはなしまつり	23年度～	10時から7時まで、1日中おはなし会を開催	地域のおはなしボランティア・文庫
	おはなしごっこ012	23年度～	乳幼児と保護者が対象。読み聞かせやわらべ歌に親しんでもらうと共に、親同士の交流を図る	NPO法人語り手たちの会 チームよこはま
	パパも一緒に読み聞かせ	24年度	子育て世代の父親と家族に向けた読み聞かせ講座	絵本作家こがようこ氏
シニア世代	介護予防パネル展	22年度～	区が取り組む介護予防事業のパネル展示	青葉区役所
	始めていますか？「終活」～相続と遺言がよくわかる講座	24年度	相続と遺言に関する講座・相談会	神奈川県行政書士会
	中村メイコ講演会『私の生き方』～楽しい老いを迎えるために	24年度	女優 中村メイコ氏の老後を楽しむ生き方についての講演	
区民のニーズ	金融講座	23・24年度	お金に関する知識を磨き、将来設計を考える講座	神奈川県金融広報教会
	青葉区を知る講座～歴史、伝統芸能、自然観察	22年度～	青葉区に伝わる「牛込の獅子舞」の講座と見学ほか	郷土史家 横溝潔氏ほか
	大人のためのおはなし会	22年度～ 年3回	大人を対象。毎回テーマを設け、演目を設定	空とぶじゅうたん
	郷土の紙芝居	22年度～	青葉区に伝わる伝説・民話を基にした創作紙芝居の口演	あおば紙芝居一座

	かるた大会	23 年度～	青葉区いろはカルタを使ったカルタ大会	まっぴい青葉の街
	横浜市大連携講座 ～文学・数学・医療講座～	22 年度	「源氏物語講座」「数学講座」などを開催	横浜市立大学

(5) 発信

各コンテンツの更新を迅速に行い、利用者の関心に応えるように努めました。

ア ホームページ

① トップページデザインの一新

3 月には、ホームページのトップページを一新し、よりわかりやすいレイアウトに変更しました。

② 新コンテンツの増設

- ・「キッズページ」
- ・「青葉探訪 郷土資料の探し方」（郷土資料パスファインダー）
- ・「学校図書館支援ページ」

「キッズページ」では、おはなし会や子ども向けイベントなど主に親子に向けた情報を発信。「青葉探訪 郷土資料の探し方」では、「青葉区の武士とお城」「大山街道」などの郷土資料パスファインダーを作成しました。「学校支援ページ」は、図書室の環境整備の参考事例を掲載するなど、学校図書館を運営する上で、参考となるサイトを目指しています。

イ スマートフォン

近年インターネット閲覧が増加している「スマートフォン用」にホームページを新設し、幅広い層へ向けたホームページ構築に努めました。

ウ ツイッター

開館時間や休館日の案内など、山内図書館の日々の情報を発信。また、ツイッターの即時性を活かして、職業体験や講座の最中にイベントの実況中継を行いました。

エ ブログ

① やまちゃんの館内レポート

図書館からのお知らせ、イベントの告知に加えて、館内の様子を山内図書館マスコットキャラクターやまちゃんがレポートしました。

② 臨場感の演出

イベント開催後には写真付きの開催レポートを掲載し、ブログを見た人にも当日の臨場感が味わえるよう工夫しました。

③ 35周年企画「来館ポイント2倍デー」の告知

月に1回設けた、ポイント2倍デーを、ブログで告知。非来館者への来館促進に努めました。

④ おすすめの本の紹介

季節やその日の天気、タイムリーな話題に関する本などを随時紹介。また、年1回、「やまちゃんが選んだ今年の3冊」を紹介するなどしました。

⑤ 旬の情報を届ける

年初には、やまちゃんだけではなく、干支であるへびのぬいぐるみを登場させ、館内をレポート。常にブログに新鮮さを保つよう努めています。

オ メールマガジン

① 重要情報のお知らせ

開館時間や休館日、各イベント案内や図書館からの重要なお知らせなどを月に2回配信。臨時休館など、特にお知らせしたい情報については、臨時増刊号を配信しました。

② 特典情報

メールマガジン読者にしか読むことのできない、図書館員のコラムや本の紹介を行いました。

カ FMサルースへの出演

月に1回、地域のコミュニティFM「FMサルース」の番組に出演し、**絵本の新刊情報**などを紹介しています。

(6) **学校連携事業**

ア 専任の学校連携担当者を配置

専任の学校連携担当者が学校の要請に応じて学校図書館環境整備を中心に訪問支援を行いました。（24年度巡回支援校：山内小、嶮山小、谷本小、谷本中、みたけ台小、みたけ台中、鴨志田緑小、藤が丘小）

23年度終了までに青葉区の全小学校を訪問し、運営カルテを作成しました。

イ ボランティア支援

① 支援講座

22年度から学校図書ボランティア向け講座を開催しています。

- ・学校図書館本の「整理基本のき」と修理のための製本講座（年2回～3回）
- ・「小学校での読み聞かせ講座初級編全3回」の開催（年2回～3回）

※23年度は、自主企画事業として山内図書館と区内2地区センターを会場に実施。

② ボランティア相談日の設置

「ボランティア相談日」を設け、本の修理の実践のフォローアップや、読み聞かせ活動のステップアップ講座を実施しました（23年度5回、24年度6回 実施、25年度8回開催予定）。

③ ボランティア交流会の開催

23年度から引き続き、区内の小中学校図書ボランティア活動と山内図書館学校連携事業活動のパネル展を行っています。期間中に図書ボランティアの交流会を設け、情報交換の場としています。今後は、教育委員会、学校、図書ボランティアが情報交換できる場を設け、公共図書館の学校図書館支援が具体的に展望できるようにする必要があります。

ウ 教職員向け支援

① 「学校や家庭で役立つ製本講座（夜間講座 全2回）」

教職員、学校図書ボランティア等に向けて夜間に製本講座を開催しました（平成24年7月）。

② 青葉区学校図書館教育研究会研修会講師を務める（平成22年～）

「ブックトーク実演」（2回）、「学校図書館の本の分類と配架について」、「本の修理の基礎研修」などの講師を行いました。

③ 中学校図書館部会の情報交換会、学校図書館訪問研修などに参加

上記の会合に出席し、公共図書館としてアドバイスをを行いました。

④ 学校図書の選書に役立つ本の展示

山内図書館集会室にて、「学校図書館の選書に役立つ本の展示」を実施しました（平成24年6月1日～3日）。横浜市立図書館所蔵の本の中から最近2年間に刊行された調べ学習に役立つ本（約800冊）と優良図書展示本（弊社協力）を展示し、来館の先生方の選書相談に応じました。

⑤ 来館向け支援

児童・生徒向けに、図書館見学、来館調べ学習、職業体験、教職員向け貸出、訪問読み聞かせ、訪問ブックトーク、職業講話などに対応しました。

4 外部からの要望

(1) 平成23年度横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会からの指摘事項

ア 基幹的なサービス

個人貸出に対するサービス実績の向上を期待されている。

イ 充実・推進を図るサービス

地域資料についてもう一步の努力を期待されている。

ウ 民間ノウハウを活かした新たな取り組み

民間事業者らしいノウハウを活かした新たな取り組みが期待されている。

(2) 平成23年度の利用者アンケートからの声

ア 民間ノウハウへの期待意見

- ・有隣堂グループになってサービスに工夫・拡大が感じられる。
- ・民間の活力を徹底的に活用すべきだ。
- ・地域資料提供への期待。
- ・地域に関する面白い展示が有るのもっと積極的に発信し、知らせて欲しい。

イ 読書推進

読書は子供達を育てる重要な事なので、精一杯それをサポートしてほしい。

ウ 広報

- ・色々と知らなかった事が多かったので、もっと目立つ工夫をした方が良いと思う。

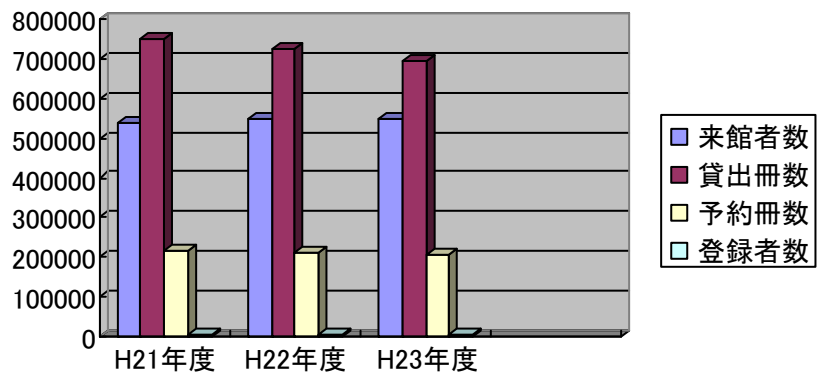
エ 資料提供

資料が探しづらい。

5 山内図書館の課題

(1) 数値で見る現状

ア 図書館利用

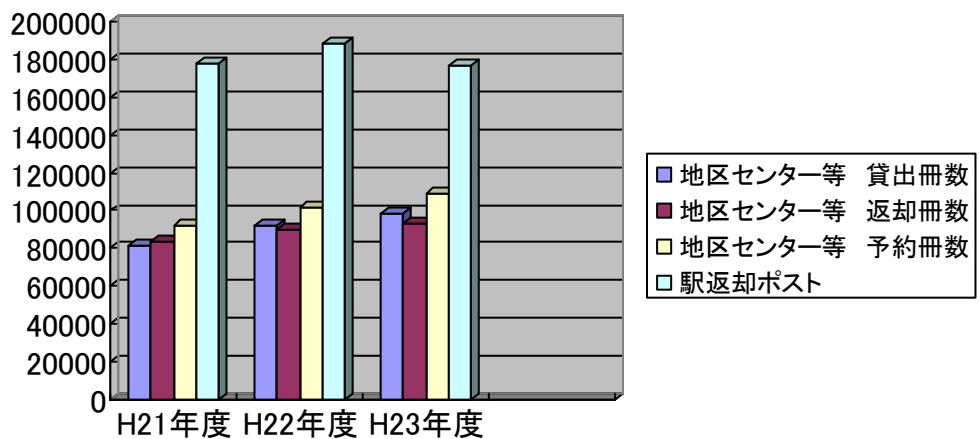


【単位：人】

	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度
来館者数	540,679	549,059	549,568
貸出冊数	750,250	726,970	694,503
予約冊数	215,108	209,207	206,625
登録者数	7,043	6,786	6,115

来館者数は微増、貸出・予約冊数・登録者数は減少傾向にあります。

イ 図書取次サービス



地区センター等での貸出・返却・予約冊数ともに増加傾向にあります。駅返却ポストは、22年度は利用が増加しましたが、23年度は減少に転じています。

また、図書館カード登録数は、現状では奉仕人口に対して 86,139（平成 23 年度登録件数）／305,513（平成 24 年 3 月現在奉仕人口）と、28%しか利用登録がされていません。隣接区の都筑図書館と比べると厳しい結果となっています。今後は新規登録者獲得の機会を研究する必要があります。

奉仕人口に対する登録率	都筑図書館 42%	緑図書館 27%	港北図書館 18%
-------------	-----------	----------	-----------

※平成 23 年度図書館年報より

(2) 現状と外部の要望から浮かび上がる課題

ア 図書取次の強化

山内図書館は青葉区の東端に位置するため、西部地域からは電車とバスを乗り継がないと図書館へは来られません。そのため、図書取次を行う地区センター等での利用が伸び、貸出冊数も順調に増えています。来館が不便な利用者に対して、便利な図書取次サービスをさらにアピールする必要があります。

イ 地域コミュニティの強化による地域情報の充実

- ・青葉区民が歴史や文化、自然も豊かな「わがまちのこと」を知り、地域に目を向け、新しい文化を築く支援をする必要があります。
- ・図書館は地域のものであり、地域の情報を集積し、地域の文化を残し伝える役割があります。そのためには地域で活動している団体や官民と連携し、新たな文化を図書館から発信することが必要です。

ウ 探しやすい図書館マップ・サインの充実

アンケートの回答に「資料が探しづらい」とあるとおり現在のフロア案内は統一性にかけ、利用者がすぐに目的の書架にたどりつけない状況となっています。「資料を探しやすい」図書館を目指し、館内の動線を考慮した配置や館内サインの検討が急務となっています。

エ おもてなしサービス「山内マインド」の向上

24 年度に実施した夏休みや土日など繁忙時に図書館入口に立ち、館内の利用方法をガイドする「案内係」は好評でした。この案内係は「来館者へのおもてなし」の気持ちからはじめたサービスです。今後も一般的な接遇だけでなく、このおもてなしの気持ちを新たに「山内マインド」とし、スタッフ全員が意識して接客接遇マナーを高め、来館者が「来てよかった」「当初の目的とは異なったが、よい情報が得られた」と思っただけのように対応していく必要があります。

オ 山内堂の活用

山内図書館には他の地域館にはない文具・書籍を販売するミニミニショップ「山内堂」があります。売上の中で地域資料を含む書籍が伸びています。今後は、地域資料等の普及を図る上でも、地域資料の充実に努めます。

カ 読む人を育てる自主企画や展示

① 未就学児向けの読書推進

未就学児に向けての読書推進は定例のおはなし会をはじめ、0 歳から 2 歳児向けの「おはなしごっこ 0 1 2」の講座を行っています。また初めて出会う本の紹介として弊社作

成の絵本キャンペーン『Hello,Baby Hello,Book!』や『4 Gifts for Kids』リーフレットを児童コーナーに置いたところ、翌週には追加するほど好評でした。今後も乳幼児や未就学児が本と出会う場を積極的に設ける必要があります。

② 託児サービス構想

未就学児を連れた母親から「たまには子供を気にせず、ゆっくりと本を読みたい、選びたい」という声を聞きます。そのようなニーズにこたえるため託児サービスを検討する必要があります。

③ 小学生向け読書推進

小・中学生の山内図書館サポーターを増やすために、『やまちゃんキッズクラブ』を行っています。24年度は、配架などの図書館内業務だけでなく、FMサルースの番組に出演し、おすすめの本を同世代に向けて紹介してくれました。今後もさまざまな企画を通して、サポーターづくりをすすめるとともに、本に親しむ場を提供していく必要性があります。

キ 発信

- ・山内図書館オリジナルホームページは24年度に大幅にブラッシュアップし、コンテンツの充実を図りました。25年度はコンテンツの内容をさらに充実し、深化させる必要があります。
- ・現在、家庭でもインターネット・スマートフォンなどデジタル機器は急速に普及しています。今や利用者は図書館にも、紙の情報だけでなくデジタル資料も求めています。このように生活の変化とともに図書館も変わる必要があります。

ク 学校連携事業の新しい支援業務の研究

- ・学校図書館への支援業務は、この3年間は図書整備のアドバイスやボランティア育成を行ってきました。今後は学校司書が配属された学校に対してどのようにサポートするべきか検討する必要があります。

6 戦略計画ツール「SWOT分析」を用いた課題の解析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	【強み】 ① 図書取次による貸出冊数が増加している。 ② 地域の活動団体とのコミュニティがあり連携事業が盛んである。 ③ オリジナルホームページ・ブログが好評である。 ④ 書店のノウハウがある。 ⑤ 学校図書館支援業務として青葉区内の学校図書館を把握している。 ⑥ 開館時間が長い。	【弱み】 ① 来館者数・登録者数とも減少している。 ② 登録率が少ない。 ③ 館内のサインがわかりづらいという利用者からの声がある。 ④ 都筑図書館と来館者数及び登録件数の差が大きい。 ⑤ 民間ノウハウが活かせていない。 ⑥ スタッフの接遇が十分でない。
外部環境	【事業機会】 ① 地域の活動が活発である。 ② 有隣堂たまプラーザテラス店が同じ青葉区にある。 ③ 横浜美術大学をはじめ、区内の大学との連携の見込みがある。 ④ 子育て世代の利用が増加している。	【事業脅威】 ① 直営館をはじめ、他の図書館で魅力的な講座が開催されている。 ② 他指定管理者が新しいサービスを展開している（武雄市等）。



【25年度に取り組む優先課題】

- (A) 地域（活動家及び活動団体、官民）とのコミュニティをさらに強化しなければならない。
- (B) 新規登録を増やし、登録者数・来館者数を増加させなければならない。
- (C) 民間ノウハウを活用し、一層のサービスの充実を図らなければならない。
- (D) 図書館内の環境（サイン・接遇・保育）を整備しなければならない。
- (E) 広報活動を強化し、図書館のPRをしなければならない。

7 平成25年度の事業方針

SWOT分析により抽出した、5つの課題（A）（B）（C）（D）（E）を解決していくために、平成25年度は下記の3つの方針をかかげ、一層のサービスの拡充に努めます。

(1) 地域の情報拠点

生活密着図書館「Liferary」として、地域情報の集積地となり、青葉区関連の資料を積極的に収集し提供していきます。また、地域情報コンテンツの充実を図り、オリジナルホームページ、ブログ、メールマガジンなどを使って、高い頻度で情報を発信していきます。さらに、iPadによる館内利用向け郷土デジタルコンテンツの充実を図り、新しい形での情報提供に努めます。

(2) 知のシンクタンク

人間工学の視点にたったわかりやすいサインと排架、LAN環境の更なる整備により、生活の中の「知りたい」や課題に応える環境を整えます。また、調べ方の講座や館内ツアーを開催することにより利用者自身の情報収集能力を高めていきます。

(3) 知のオアシス

利用者フォーラム、アンケートなどにより、山内図書館へのニーズを幅広く把握し、民間の力を活用して生活密着図書館「衣食住 読」の快適な読書空間をつくっていきます。また、講座やおはなし会の開催をとおして、知的好奇心を満足させる豊穡な時間を提供していきます。

8 取り組みのテーマ

	①地域情報拠点	②知のシンクタンク	③知のオアシス
(A) 地域コミュニティの強化	・地域の団体が作成した資料（チラシや活動の紹介・機関紙等）を積極的に収集する ・学校や市民利用施設に出張し、図書館関連講座を開催する ・FM サルースとの連携	・郷土史家や地域企業と連携し、地域に関する講座や講演を開催 ・市内の大学と連携した有料講座の開催	・地域の団体や学校と連携し、企画展示を行う ・区内の美術大学と連携し、図書館内に常設の展示コーナーを設置し、学生の作品展示を行う
(B) 利用者増	・山内堂にて地域資料を販売し、地域資料の入手を手助けする ・青葉区の歴史、芸能、文化財などに関する講座や展示を開催 ・iPad による館内利用者向け地域情報の提供の強化	・レファレンス専用デスク「やまうちよろず相談処」のPR ・知的好奇心を満たすための講座の開催 ・情報リテラシー講座開催（大人向け）	・朝市などの新規イベントの開催 ・魅力的な企画展示の開催 ・託児サービスの実施による子育て世代への読書支援
(C) 民間ノウハウ	・山内堂にて郷土資料や青葉区関連の作家の資料の販売	・子ども向けインターネット百科事典の設置 ・有料データベースの拡充 ・市内の大学と連携した有料講座の開催 ・人気講師による講演	・専門家のコンサルティングを導入してサインを見直す ・マリーンジェムや観葉植物の設置による快適な読書空間の演出 ・接遇研修を定期的実施
(D) 環境	・青葉区に関連する資料の収集・発信 ・郷土資料コーナーのサインの見直し ・郷土資料コーナーに、テーマ展示の場所を設ける	・参考図書・基本図書の充実 ・参考図書の活用方法の研究 ・レファレンス職員研修を実施し、一層のスキルアップを図る	・利用者を配慮したプロによるサイン・館内案内図の見直し ・新聞データベースに加えて、地図情報のデータベースを導入する ・無線 LAN 環境の更なる整備
(E) 発信	・地域情報収集のPR ・タウン誌との連携強化 ・ホームページの新コンテンツ郷土パズルファインダーの更なる充実を図る	・開催した講座の内容を小冊子にまとめ、配布する ・ホームページに平成 24 年度に追加したコンテンツ『キッズページ』『学校図書館支援ページ』の内容の充実	・図書館のサインを含む新しい環境整備について、図書館および専門家の双方から広報する ・イベントの新聞掲載への随時PR

9 具体的な取り組みによる期待される効果

(A) 地域コミュニティとのさらなる強化

- ・継続事業として「やまうち朝市」を地元の農業経営者と協働で開催します。引き続きＪＡとの連携も図っていきます。
- ・「山内堂」では、今後も青葉区の地域資料を販売していきます。これに加え、横浜に関する雑誌や新書の販売を行い、地域情報の普及に努めます。
- ・横浜・緑区米軍機墜落事故平和資料センター発行の資料を「山内堂」で販売したところ反響が大きかったことから、同センターと協力して展示を行います。
- ・青葉区内の大学との連携をすすめていきます。横浜美術大学とはジオラマ制作を協働で行った経緯を踏まえ、壁面に学生の手による絵画を飾るなどして連携を深めていきます。また、各大学の講師により、文学や美術、歴史、健康などに関する講座を行います。
- ・青葉区の伝統芸能を紹介する講座や展示は継続して行いきます。

効果	地域との連携の強化、利用者の増加
----	------------------

(B) 新規利用者の開拓と利用促進

- ・春休み期間に区役所へ出張し、図書館登録デスクを設けて新規登録を受け付けます。これにより転入者に図書館をＰＲします。
- ・「やまうち朝市」の開催に合わせ、新聞折込みを利用して山内図書館のPRチラシを配布します。
- ・地区センターなどの区民利用施設で開催する催しに、図書館として参加する機会を増やします。可能な場合は図書館登録デスクを設けて新規利用者の獲得に努めます。
- ・託児サービスを実施することにより、ゆっくりと本を選びたいという子育て世代のニーズに応えます。「子どもがいると図書館の利用は難しい」とあきらめていたお父さん、お母さんの利用者増加を図ります。

効果	新規利用者及び来館者数・予約数・登録者数の増加
----	-------------------------

(C) 民間ノウハウ（来館者をもてなす志）を活用

- ・「山内堂」では、弊社の流通ノウハウを活用し、青葉区の地域資料のほか、横浜に関する雑誌や有隣新書の販売を行い、地域情報の普及に努めます。
- ・これまで以上に利用者からのニーズにすぐに答える「スピード対応」を目指し、稟議などの決裁を簡略化して課題解決していきます。
- ・利用者満足を目指し、山内マインド「来館者をもてなす」を実行し、山内図書館のファンやリピーターを増やします。
- ・ホームページやブログ、ツイッターやメールマガジンなど時代のニーズに合わせた情報発信を続けてきました。25年度も新しい情報発信の方法を模索し、求められているニーズに対応できるよう常にアンテナを張り、利用者により必要な情報を届けられるように研究していきます。

効果	サービスの向上による利用者満足度のアップ
----	----------------------

(D) 図書館内の環境整備

- ・人間工学会との連携により館内のサインを見直します。人間工学の考え方を取り入れることにより、本がどこに置かれているのか、利用者にわかりやすく表示します。
- ・館内の巡視を実施し、安全面からの点検を行います。危険となりうる可能性のあるものについては、迅速に対応し、改善していきます。また、スタッフ用に「安全目安箱」を設置し、日々の作業の中での気づきを投函できるようにします。
- ・水槽マリーンジェムにより、引き続きいやしの空間を提供します。また、インテリアグリーンを置くことにより目に優しい空間を演出していきます。

効果	快適な読書空間の創出による利用者の増加
----	---------------------

(E) 発信の強化

- ・24年度までに構築したホームページのコンテンツを充実させていきます。ホームページ閲覧者の視点にたって、「見やすさ」を追求するとともに、情報の整理・追加を迅速かつ継続的に行っていきます。特に24年度新設の「キッズページ」「青葉探訪 郷土資料の探し方」「学校支援ページ」は、重点的に更新をしていきます。
- ・展示や講座により、青葉区の情報を発信します。
- ・24年度実施の山内図書館のアンケートの結果を展示とホームページで公表します。
- ・記者発表の回数を増やしていきます。また、タウン誌への情報提供を積極的にすすめ、掲載の回数増加をめざします。

効果	ホームページアクセス数及び認知度のアップ
----	----------------------

10 収支予算計画

項 目		予算額
収 入	指定管理料	168,575,000
	事業収入	250,000
	その他の収入	330,000
合 計		169,155,000

支 出	人件費（給与・賃金・通勤費・法定福利費）		72,000,000
	管理費		55,142,000
	光熱水費		20,278,000
	施設・設備の保守管理料		18,876,000
	清掃・衛生管理費		9,797,000
	施設維持消耗品		3,191,000
	通信・回線利用料		700,000
	修繕費		2,300,000
	事業費		10,831,000
	自主企画事業費		4,521,000
	図書取次サービス事業費		6,310,000
	事務費		31,182,000
	L A N環境整備・運営費		1,182,000
	公租公課		5,000,000
	本社経費		24,000,000
	その他の経費（旅費・備品・印刷製本等）		1,000,000
合 計			169,155,000

《 おわりに 》

今後も民間ノウハウを活かし、地域に根ざした『生活密着型図書館 Liferary』を目指します。
「衣・食・住・読」をコンセプトに、利用者の“読みたい・知りたい”に即応する充実した読書空間として、一層のサービスの拡充に努めます。

「平成25年度山内図書館事業計画書

～衣・食・住・読！ 生活密着型図書館「Liferary」を目指して～」

平成25年3月

山内図書館指定管理者 有隣堂グループ

平成24年度自主企画事業の振り返り

・開館35周年記念事業として企画展示「35年、読み継がれる絵本たち」、「1977年への旅～開館時の山内図書館と青葉区のあゆみ～」のジオラマ展示、中村メイコ氏によるシニア層に向けた講演会、読書クロスワードパズル、青葉区内図書館貸出施設マップのリニューアルを実施し、好評を博した。また、地域と共に歩み続ける山内図書館を広く市民にPRすることができた。

・23年度に実施し反響が大きかった事業「夏のおはなし祭り」や「おはなしごっこ012」等を継続開催することで、市民のニーズに応え、かつ、地域団体との連携や市民協働の推進を図ることができた。

・山内地区センター祭りに合わせて修理ボランティアの紹介事業を行ったり、やまちゃんキッズクラブが地元FM番組に出演する等、地域の他機関と繋がって事業を実施することで、市民が図書館事業を知り参加する機会を広げた。

・横浜市立大学との連携講座や終活講座、マナー講座、郷土の講座（田園都市開発、青葉区の獅子舞）等の大人向け講座や、小学生のための調べ方講座、1日図書館員等の子供向け講座を開催し、世代やライフスタイルに応じた課題解決支援となる事業を展開した。

平成25年度自主企画事業実施方針

・24年度まで実施してきた市民協働事業や地域団体との連携事業を継続開催し、関係を更に深める。また、新たな団体等と繋がりを持ったり、企画内容に発展性を持たせることで「地域と共に歩み続ける山内図書館」の構築とPRを引き続きすすめていく。

・定例おはなし会と春、秋の読書週間おはなし会だけでなく、やまちゃんキッズクラブや夏のおはなし祭り、おはなしごっこ012、語りの楽しさを大人が知る「大人のためのおはなし会」等、年間を通して頻繁に子ども読書活動の支援事業を実施し、より多くの市民が読書活動に触れる機会を作り出す。

・市民の「知りたい・学びたい」に応える事業を世代やライフスタイルに合わせた形で提供し、情報発信と課題解決支援を行う。

・企業や大学と連携した講座や広報企画と併せた事業の実施など、民間のノウハウを活かした特長のある企画を展開し、未利用者の来館促進と継続利用に繋げる。

実施予定事業月別一覧

月	事業名	記者発表の有無	ミニコミへの情報提供の有無	備考
4月	【企画展示】新学期、よんでみようこんな本！（4～5月）	無	有	
	子ども読書週間おはなし会（C）	無	有	
5月	親子で楽しむ郷土の紙芝居（春）	無	有	協力：あおば紙芝居一座
	あおば探訪「青葉区の田園都市開発 第二弾 田園都市開発の過去現在」	有	有	協力：東急電鉄株式会社
	やまちゃんキッズクラブ①	有	有	
	【企画展示】もっと知りたい！アフリカ（5～6月）	無	有	
6月	空とぶじゅうたん 大人のためのおはなし会①	無	有	
	【パネル展示】「濱の農」ディスカバリー（6～7月）	無	有	
7月	【企画展示】戦争・紛争・平和（7～8月）	無	有	
	【企画展示】夏休み、よんでみようこんな本！（7～8月）	無	有	
	新聞の読み方・正しい情報のつかみ方講座	無	有	共催：朝日学生新聞社
	小学生のための調べ方講座	無	有	協力：ポプラ社
8月	やまうちとしゃかん 夏のおはなし祭り2013（B）	有	有	
	小学生夏休み一日図書館員	無	有	
9月	【企画展示】あの日を忘れない～横浜・米軍機墜落事故～（9月）	無	有	
	歴史講座「明治維新史」（全5回）	無	有	
10月	【企画展示】青葉区の獅子舞	有	有	
	あおば探訪「牛込の獅子舞」	有	有	
	親子で楽しむ郷土の紙芝居（秋）	無	有	協力：あおば紙芝居一座
	空とぶじゅうたん 大人のためのおはなし会②	無	有	
11月	【企画展示】介護予防パネル展	無	無	共催：青葉区保健福祉センター
	はまっ子読書の日 おはなし会（C）	無	有	
	やまちゃんキッズクラブ②	無	有	
	【事業協力】山内地区センターまつり	無	無	
	本の病院（修理ボランティア活動紹介）	有	有	
	【事業協力】青葉おはなしフェスティバル2013	無	有	
	【事業協力】区民交流センターまつり 図書館ブース出展	無	無	
12月	めざせ！図書館マスター～大人のための調べ方講座・初級編～	無	有	
1月～3月は裏面に				

1 月	【企画展示】青葉区いろはカルタ	無	有	協力：まっぴい青葉の街
	青葉区いろはカルタ大会	無	有	協力：まっぴい青葉の街
	親子で楽しむ郷土の紙芝居（冬）	無	有	協力：あおば紙芝居一座
2 月	横浜市立大学連携 文学講座（全5回）	無	有	共催：横浜市立大学地域貢献センター
	空とぶじゅうたん 大人のためのおはなし会㊤	無	有	
3 月	【企画展示】青葉区の桜	無	有	
	やまちゃんギッズクラブ㊤	有	有	

定例おはなし会（定例おはなし会、親子おはなし会、福祉保健センター連携事業等）

おはなし会 A（職員によるおはなし会）

事業名	対象	日時

おはなし会 B（ボランティアによるおはなし会）

事業名・団体名	対象	日時

おはなし会 C（ボランティアと職員による協働おはなし会）

事業名・団体名	対象	日時
空とぶじゅうたん絵本と語りおはなし会	3歳以上 1人でおはなしを聞ける子	毎月第2・4水曜日 15：30～16：00
空とぶじゅうたん絵本と語り親子おはなし会	1歳以上の子どもと保護者	毎月第2・4金曜日 ①11：00～11：20 ②11：30～11：50

その他の定例的な事業 ※概ね2ヶ月に1回程度開催するものは定例的な事業としてご記入ください。

事業名 （ボランティアによるもの・ボランティアと職員の協働によるものは団体名もご記入ください）	対象	日時
こどもを育てるあそびとおはなし！ “おはなしごっこ012”	0.1.2歳児と保護者	毎月第4木曜日 10：30～11：45

山内図書館 平成25年度 小・中学校支援年間計画表

【別紙2】

		図書館の主な動き (児童関係)	学校の動き	図書館見学のインターユー	来館調べ学習	職業体験	学校訪問支援 図書館整備相談訪問 ブックトーク・読み聞かせ ボランティア活動支援など	山内図書館学校連携主催 事業(本の展示、読み聞かせ講座、修理のための製本講座、ボランティア活動相談、学校連携展示等	区図書館教育研究会、教職員向講習、市他団体研修会講師、等	教職員貸出
4月	上	異動	入学式							随 時 受 付 ◎
	中						○支援継続校訪問		学連活用 PR	
	下						○支援継続校訪問		小学B研	
5月	上	特別お話し会		○						
	中			○			○整理修理講習	(選書に役立つ本の展示)		
	下	(蔵書点検)		○				◎ボランティア相談日①		
6月	上	キッズ①		○	○		○訪問修理講習	◎整・製本講座3回	中学図部会	
	中	蔵書点検		○	○		○	読み聞かせ講座初級編		
	下			○	○		○	(3回)山内図書館	担当者会議	
7月	上			○	○		○	ボランティア相談日②		
	中	調べ物講座		○	○		○		あおばネットワーク	
	下		夏休み		○	○	○		B研講師	
8月	上	夏のお話し祭				○				
	中	1日図書館員				○				
	下						○			
9月	上	キッズ②		◎			○			
	中			◎			○	ボランティア相談日③		
	下			◎	○		○			
10月	上				○		○	整理・修理講座3回		
	中				○		○	ボランティア相談日④		
	下	読書週間関連		○	○		○			
11月	上	事業	浜読日				○訪問ブックトーク		中学図部会	
	中			○	○		○訪問読み聞かせ	ボランティア相談日⑤		
	下			○	○		○			
12月	上			○			○			
	中			○			○	教職員向夜間講座		
	下		冬休み				○		市図研修会	
1月	上									
	中				○	○	○	ボランティア相談日⑥		
	下				○	◎		読み聞かせステップアップ	推進校報告	
2月	上			○	○	◎				
	中			○	○	◎	○	ボランティア交流会		
	下			○			○	*学校連携テーマ展示		
3月	上	キッズ③		○			○各校へ事業報告			
	中		卒業式				○			
	下		春休み				○蔵書相談			

* ◎は特に頻度が高く、重点を置く時期 ○は比較的頻度が高い時期 2013年3月8日 秋元澄子(山内図書館)